

本の事

芥川龍之介

青空文庫

各国演劇史

僕は本が好きだから、本の事を少し書かう。僕の持つてゐる洋綴の本に、妙な演劇史が一冊ある。この本は明治十七年一月十六日の出版である。著者は東京府士族、警視庁警視属、永井徹と云ふ人である。最初の頁にある所蔵印を見ると、嘗は石川一口の蔵書だつたらしい。序文に、「夫演劇は国家の活歴史にして、文盲の早学問なり。故に歐洲進化の国に在ては、縉紳貴族皆之を尊重す。而してその隆盛に至りし所以のものは、有名の学士羅希に出て、之れが改良を謀るに由る。然るに吾邦の学者は夙に李園（原）を鄙み、措て顧みざるを以て、之を記するの書、未嘗多しとせず。即文化の一具を欠くものと謂可し。（中略）余茲に感ずる所あり。寸暇を得るの際、米仏等の書を繙き、その要領を纂訳したるもの、此冊子を成す。因て之を各国演劇史と名く」とある。羅希に出た有名の学士とは、希臘や羅馬の劇詩人だと思ふと、それだけでも微笑を禁じ得ない。本文にはさんだ、三葉の銅版画の中には、「英国俳優チオフライ空窖へ幽囚せられたる図」と云ふのがある。その画が又どう見ても、土の牢の景清と云ふ気がする。

チオフライは勿論 Geoffrey であらう。英吉利の古代演劇史を知るものには、これも噴飯ふんぼんに堪へないかも知れない。次手ついでに本文の一節を引けば、「然るに千五百七十六年女王エリサベスの時代に至り、始めて特別演劇興業の爲め、ブラツク・フラヤス寺院の不用なる領地に於て劇場を建立こんりふしたり。之を英国正統なる劇場の始祖とす。而て此しかしはレスター伯に属し、ゼームス・ボルベージ之が主宰しゆさいたり。俳優にはウイリヤム・セキスピヤと云へる人あり。当時は十二歳の児童なりしが、ストラタフォルドの学校にて、羅甸ラテン並に希臘ギリシヤの初学を卒業せしものなり」と云ふのである。俳優にはウイリヤム・セキスピヤと云へる人あり！三十何年まへか前の日本は、髻鬚はうふつとこの一語に窺うかがふ事が出来る。この本は希觀きこうし書よでも何なんでもあるまい。が、僕はかう云ふ所に、捨て難いなつかしみを感じてゐる。もう一つ次手ついでに書き加へるが、僕は以前物好きに、明治十年代の小説を五十種ばかり集めて見た。小説そのものは仕方がない。しかしあの時代の活字本には、当世の本よりも誤植が少い。あれは一体世の中が、長閑のどかだつたのにもよるだらうが、僕はやはりその中に、篤実な人心が見えるやうな気がする。誤植の次手ついでに又思ひだしたが、何時いつか石印本の王わう建けんの宮詞きゆうしを読んでゐたら、「御池ぎよち水色のすゐ春はる来き好い、しよしよぶんりうすはくぎよくのきよ、処しよ処しよ分ぶん流りう白はく玉ぎよく渠きよ、くんわ密みつ

奏君 王知入月、喚人相伴洗裙裾」と云ふ詩の、入月が入用と印

刷してあつた。入月とは女の月経の事である。(詩中月経を用ひたのは、この宮詞に止まるかも知れない。) 入用では勿論意味が分らない。僕はこの誤にぶつかつてから、どうも石印本なるものは、一体に信用出来なくなつた。何だか話が横道へそれたが、永井徹著の演劇史以前に、こんな著述があつたかどうか、それが未だ疑問である。未にと云つても僕の事だから、別に探して見た訣ではない。唯誰かその道の識者が、教を垂れて呉れるかと思つて、やはり次手に書き加へたのである。

天路歷程

僕は又漢訳の Pilgrim's Progress を持つてゐる。これも希觀書とは称されない。しかし僕にはなつかしい本の一つである。ピルグリムス・プログレスは、日本でも訳して天路歷程と云ふが、これはこの本に学んだのであらう。本文の訳もまづ正しい。所々の詩も韻文訳である。「路旁生命水清流」天路行人喜暫留百果奇花供悅樂」吾儕幸得此埔遊」——大体こんなものと思へば好い。面白いのは銅版画の挿画に、どれも支那人が描いてある事である。Beautifulの宮殿へ来た

所なども、やはり支那風の宮殿の前に、支那人の Christian が歩いてゐる。この本は清朝しんてうの同治八年（千八百六十九年）蘇松そしやう上海シヤンハイ華草書院くわさうしよいんの出版である。序に「至咸かんぼうさんねんにいたりちうこくのししやそけうしとさんやくはじめてなる

豊三年中国士子与耶蘇教師参訳始成」一とあるから、この前にも訳本は出てゐたものらしい。訳者の名は全然不明である。この夏、北京ペキンの八大胡同はちだいこつどうへ行つた時、或清せ吟いぎん小班せうはんの妓つぐゑの凡ゑに、漢訳のバイブルがあるのを見た。天路歷程てんろりしやうの読者の中にも、あんな麗人があつたかも知れない。

Byron の詩

僕は John Murray が出した、千八百二十一年版のバイロンの詩集を持つてゐる。内容は Sardanapalus, The Two Foscari, Cain の三種だけである。ケエンには千八百二十一年の序があるから、或は他の二つの悲劇と共に、この詩集がその初版かも知れない。これも検べて見ようと思ひながら、未いまだにその儘打遣うつちぢやつてある。バイロンはサアダナペエラスをゲエテに、ケエンをスコツトに献じてゐる。事によると彼等が読んだのも、僕の持つてゐる詩集のやうに、印刷の拙つたない本だつたかも知れない。僕はそんな事を考へながら、時々唯気まぐ

れに、黄ばんだペエチを繰つて見る事がある。僕にこの本を贈つたのは、海軍教授豊島としまさ定氏だである。僕は海軍の学校にゐた時、難解の英文を教へて貰つたり、時にはお金を借して貰つたり、いろいろ豊島氏の世話になつた。豊島氏は鮭さけが大好きである。この頃は毎日晩酌ばんしやくの膳ぜんに、生鮭なまざけ、塩鮭しほざけ、粕漬かすづけの鮭さけなぞが、代る代る載のつてゐるかも知れない。僕はこの本をひろげる時には、そんな事も亦また思ふ事がある。が、バイロンその人の事は、殆ほ念頭しんづに浮べた事がない。たまに思ひ出せば五六年以前に、マゼツパヤドン・ジユアンを読みかけた儘、どちらも読まずにしまつた事だけである。どうも僕はバイロンには、縁えんなき衆しゆじやう生せいに過ぎないらしい。

かげ草

これは夢の話である。僕は夢に従姉いとこの子供と、三越みつこしの二階を歩いてゐた。すると書籍部と札ふだを出した台に、Quarto 版の本が一冊出てゐた。誰の本かと思つたら、それが森先もり生の「かげ草」だつた。台の前に立つた儘、好いい加減に二三枚あけて見ると、希臘ギリシヤの話らしい小説が出て来た。文章は素直すなほな和文だつた。「これは小金井こがねきみ子女史の訳かも知

れない。何時か古今奇觀を読んでゐたら、村田春海の竺志船物語と、ちつとも違はない話が出て来た。この訳の原文は何かしら。——夢の中の僕はそんな事を思つた。が、その小説のしまひを読んだら、「わか葉生訳」と書いてあつた。もう少し先をあげて見ると、今度は写真版が沢山出て来た。みんな森先生の書画だつた。何でも蓮の画と不二見西行の画とがあつた。写真版の次は書簡集だつた。「子供が死んだから、小説は書けない。御寛恕下さい」と云ふのがあつた。宛は畑耕一氏だつた。永井荷風氏宛のものも沢山あつた。それは皆どう云ふ訣か、荷風堂先生と云ふ宛名だつた。「荷風堂は可笑しいな。森先生ともあらうものが。」——夢の中の僕はそんな事も思つた。それぎり夢はさめてしまつた。僕はその日五山館詩集に、森先生の署せられた字を見てゐた。それから畑耕一氏に、煙草を一箱貰つてゐた。さう云ふ事が夢の中に何時か織りこまれてゐたと見える。Max Beerbohmの書いた物に自分の一番集めたい本は、本の中の人物が書いたと云ふ、架空の本だと云ふのである。が、僕は「新聞国」の初版よりも、このQuarto版の「かげ草」が欲しい。この本こそ手に入れば希觀書である。

(大正十年十二月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

本の事

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>